

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0873900385		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 千代田の里		
所在地	茨城県かすみがうら市東野寺495-1 (電話) 0299-23-1122		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年7月9日

【情報提供票より】(平成20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 18人, 非常勤 3人, 常勤換算	20.44人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,100 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月31日現在)

利用者人数	25 名	男性 10 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	4 名	要支援2	1 名
年齢	平均 79.4 歳	最低 59 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人聖和会つくば病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「人権の尊重、個別ケア、社会交流」の理念に基づき、その人らしく地域の一員として暮せるよう管理者や職員は理念を意識しながら日々のケアに努めている。
共用空間の大きな窓から隣接する保育園の園庭で遊ぶ園児の姿を目にすることができるとともに園児と交流するなど、微笑ましい関係を構築している。
設置法人の医療機関や希望にそって歯科、眼科の訪問診療が受けられ、医療体制が充実している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議では徐々に意見や提案等が出されるようになり、意見交換ができるようになっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や全職員で話し合いをしながら自己評価に取り組み、ユニット毎に作成している。 外部評価の結果も全職員に周知し、課題の改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、市職員、民生委員で3回開催している。 運営推進会議の委員構成を検討するとともに2ヶ月に1回開催し、地域の理解と協力をより得られるよう働きかけることを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームに苦情相談受付窓口や担当者を配置するとともに、外部苦情申立機関として市を重要事項説明書に明記している。 玄関に意見箱を設置するとともに、家族等の面会時に意見を出してもらえよう積極的に声かけをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接する保育園児と交流したり、小学校の文化祭や体育祭、市の老人会、地域のお祭りに参加している。 ホームの行事に地域の人々の参加を呼びかけたり地域のボランティアを受け入れるほか、日曜日には道路の清掃活動を行うなど積極的に地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の一員として、安心かつ快適に暮らし続けられるよう、地域に目を向けた理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の誰もが見える場所に基本理念を掲示するとともに、朝礼で復唱し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する保育園の園児と交流したり、小学校の文化祭や体育祭、市の老人会、地域のお祭りに参加している。 ホームの行事に地域の人々の参加を呼びかけたり地域のボランティアを受け入れるほか、日曜日には道路の清掃活動を行うなど積極的に地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や全職員で話し合いをしながら自己評価に取り組み、ユニット毎に管理者が作成している。 外部評価の結果も全職員に周知し、課題の改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、市職員、民生委員で開催している。会議では事業所の行事等を報告している。参加者からは少しずつだが意見や提案等が出るようになった。	○	運営推進会議の委員構成を検討するとともに2ヶ月に1回開催し、地域の理解と協力をより得られるよう働きかけることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の報告を行なうとともに運営に関する相談や助言を得たり、実情を伝えたりして随時連携を図っている。月1回介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報紙「里だより」を毎月発行するとともに、金銭管理と一緒に報告している。また、面会時や電話で健康状態や生活の様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに苦情相談受付窓口や担当者を配置するとともに、県や市などの第三者機関を重要事項説明書に明記している。玄関に意見箱を設置している。家族等の面会時に意見を出してもらえるよう積極的に声かけをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者がユニット間を行き来する機会をつくり、全職員と馴染みの関係になれるよう取り組んでいる。異動は利用者のダメージを防ぐためにも必要最小限に抑えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じて法人内や外部の研修に参加している。 受講後は職員会議で研修内容を報告し、共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県地域密着型介護サービス協議会に加入し、県南ブロックにおいては2ヶ月から3ヶ月に1回参加するとともに、グループホーム研究大会は年1回参加し、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に職員が自宅を訪問しホームの概要を説明するとともに利用者や家族等に見学してもらい、ホームの雰囲気に馴染んでから利用が開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活のなかで利用者から昔の習慣や行事などを教えてもらうとともに、お互いに協働しながら和やかに生活ができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常の会話の中で一人ひとりの思いや希望を把握するよう努め、利用者の視点に立って支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会議を毎月開催し利用者や家族等の意向や職員の意見を踏まえて介護計画を作成している。 作成した介護計画は家族等に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前にサービス担当者会議で話し合い見直している。 期間内でも介護計画に対応できない変化が生じた場合は随時検討し、状況に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や家族等の宿泊など利用者や家族等の要望にそって柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望より継続した医療が受けられるよう支援している。 また、希望にそって歯科や眼科の訪問診療が受けられる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応は利用者や家族等の意思を確認し、医療関係者を含めて取り組んでいる。	○	重度化や終末期の対応マニュアルを作成するとともに対応方針を重要事項説明書等に明記し、家族等から同意を得ることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に寄り添い優しく接するよう対応に心がけている。 個人情報の利用目的を明確にし、家族等の同意を得るとともに記録等は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースで生活ができるよう希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけなどは利用者と職員と一緒にしている。 同じテーブルを囲み楽しい会話をしながら食事をしているが、職員はお弁当を持参している。	○	味付けや食感等を確認するためにも、職員が利用者と同じ物を食べ、一緒に食事を楽しめるような環境づくりを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ毎日入浴支援をするとともに、入浴剤を使用し気持ちよく入浴できるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの特技や趣味を發揮できる場面をつくるとともに、カラオケやレクリエーションを取り入れ楽しく生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ散歩や買い物、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し利用者の安全面に配慮するとともに、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て消火訓練や避難訓練を実施するとともに、毎月災害を想定した避難訓練を実施している。 また、地域の協力が得られるよう民生委員を通して消防団へ協力依頼をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士によるバランスのとれた献立により、利用者一人ひとりにあった食事を提供している。 1日を通して、利用者一人ひとりの食事や水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ユニットともリビング兼食堂の大きな窓から隣接する保育園の園庭で遊ぶ園児の姿や歌声が聞こえてくる環境である。 職員は行事の写真や利用者の作品、花などを飾り、ゆったりとしたスペースの中で利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は寝具や家具、テーブル、ソファなど馴染みの物品を持ち込むとともに好みの物を飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。